

「国際協調はどうして大切なのか」

東京都代表 白百合学園中学校 中学3年生 小松 葵

自国の利益のみを追求せず諸外国と友好的に協力し共存を目指す国際協調は、次の世代に持続可能な地球環境を残すためにとても重要だと考える。

例えば、中学校の校舎のゴミ拾いを一人で行っても、綺麗にするのは困難であり、それ以前にまたちらかってしまい、美しい状態を維持することは困難である。しかし、各クラスの係と連携し、生徒全員で清掃を行うことで、今までなかなか清掃が行き届かなかった靴箱からお手洗いまでがピカピカになり、さらに各自の意識が向上したことで綺麗に使われるようになる。

学校での感染症対予防でも同様のことが言える。個人的にマスクをして会話を控えたところで、教室内のいたる所でエアロゾルが発生し、身体的接触が多い状態だと感染を防ぐことは難しい。生徒全員が協力して、マスクを着用し、教室の換気を頻繁に行い、会話を控え、黙食をして初めて、感染症対策が感染症予防につながる。学校全体を世界、生徒個人を各国と考えると、学校単位での協力関係がその問題を解決することと国際協調が世界の課題を解決することは本質的に同じであることに気付く。

地球の環境問題においては、各国が自国の経済成長などのエゴを抑えて、世界全体のことを考えた行動をとることが必要になる。一つの国だけが二酸化炭素の排出量を減らしても、他の多くの国々がこれまでと同じように化石燃料を使い続ければ、地球をとりまくオゾン層破壊が進み、温暖化にブレーキをかけることはできない。また、一つの国だけが海洋資源を保護しても、その分ほかの国が水揚げを増やしてしまうと帳消しになってしまう。世界的に協調してはじめて、環境保護の対策の効果が大きなものとなる。

軍縮・核廃棄問題についても同様である。一つの国だけがそれを行って他の国が行わなければ、パワーバランスが崩れてしまい、安全保障上の問題が発生しかねない。例えば、アメリカだけ、中国だけ、ロシアだけが単独で核軍縮をするということは考えにくく、各国が協調しながら少しずつ削減を続けていくことを合意できるかどうかにかかっている。

未だに収束の見通しがたたず、その感染拡大のために体育祭や学園祭などの開催が中止を余儀なくされた新型コロナウイルスのワクチンについても同様のことがいえる。感染が深刻な地域に、ワクチンを効率的に届けることがウイルスを封じ込めることにつながる。しかしながら、貧しい国々は十分なワクチンを未だに確保できていない。

あまり知られていないが、第二次世界大戦後の荒廃からの復興は、自国の努力だけで成しえたわけではない。世界銀行からの巨額の融資で、新幹線や高速道路、ダムなどの生活の基盤を建設し、ユニセフからの寄付で子供達に救援物資が届けられた。今度は、日本が世界の貧しい国々を支援する番である。今こそ世界規模の問題を解決するために、国という枠組みを越えた国際協調が望まれる。

日本人として世界で貢献するために、中学生の今、何を心がけるべきか自分なりに考えてみた。一つ目は、世界中の国々の人々とコミュニケーションをとるために外国語を習得すること。二つ目は、それぞれの国の特性を理解し、精神的につながるために歴史や宗教、思想について学ぶこと。三つ目は、論理的に地球上の事象について議論できるよう数学や理科の教養を高めること。そして何よりも大事なものは、互いを尊重し合えるよう、基本的人権や民主主義などの普遍的な価値を尊ぶ心である。私たちの学びが国際協調に繋がり、世界の問題が解決に向かうことを願う。これまでは社会の役に立つにはどうすればよいかを漠然としか考えたことはなかったが、これからは、生徒として過ごせる時間を大切に、世界の問題解決に役に立つ人間になれるよう、有意義な学校生活を送りたい。